

「光の道」構想に関する意見

| 意見提出元 | 個人 |
|---|---|
| 意見項目 | 意見内容 |
| <p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p> | <p>⇒全ての未整備世帯へブロードバンド基盤の整備を、しかも光で、との考え方については、国民の選択肢を無くしてしまう。又、他国ではブロードバンド環境は、「光、メタリック、無線」で実現している。</p> <p>国民が利用できるブロードバンドサービスについては、行政が先導役を果たすべきであり、その中でも地方自治体が提供するサービス内容に応じ、その伝送容量に必要なブロードバンド基盤を整備して行くことが適切であると考えます。</p> |
| <p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p> | <p>⇒利用率の向上について「低廉な料金」を掲げているが、そうではなく利用率の低迷は「キラーコンテンツ不足」「行政サービスの未整備」と考える。</p> <p>上記でも述べたが、光のみによるブロードバンド利用率ではなく、あらゆるシーンに適合した「何処でも使える」選択肢のある環境作りが重要。</p> <p>⇒「NTT組織の在り方」については、公正競争はもちろんであるが、☆ネットワークの品質・信頼性確保(セキュリティ、災害復旧等)、☆日本国内のみならず世界レベル(グローバル競争)への対応、が日本経済の発展に大いに寄与すると考えます。</p> <p>従って、日本国内の見地ではなく、国際的な視野に立った議論・検討が必要と考えます。</p> <p>又、設備とサービスを分離する運営は、世界的事例から見ても決して有効な施策とは言えません。技術の進展が非常に速い中、分離運営は日本の電気通信分野の衰退が大いに危惧されます。</p> |